

自己研修レポート

大津町議会議員

山部長二

令和5年2月20日～21日かけて宇城市・人吉市・水上村の取り組みについての研修に参加して参りました。

(1)宇城市では民間による管理運営を行う宇城市不知火美術館・図書館がどのような管理運用がされているかについて



宇城市図書館は2022年4月にリニューアルオープンしました。運営は民間が展開するカルチャー・コンビニエンス・クラフ株式会社が指定管理者として運営する県内初の図書館です。座席数は約170席あり、館内はフリーWiFiを完備し電源のある席もあるのでパソコン作業等がされている方もたくさんいらっしゃいます。指定管理者による運営は、運営に関わる武雄市図書館や海老名市立中央図書館などの選書問題など賛否が分かれるところではあるが、図書館に隣接する「子ども絵本の家」が何といても素晴らしい。建物の前には芝生が広がっていて子供が遊べるスペースとなっており、中に入ると約1万冊の絵本があります。本来の図書館であれば子供が騒げば親は叱ったり困惑する事態になり図書館から足が遠のくこととなります。しかし子供絵本の家では子供がのびのびと絵本を見ながら遊ぶことができます。本町でもインクルーシブ公園に隣接した「子ども絵本の家」を設立する必要がありますのではと考えています。

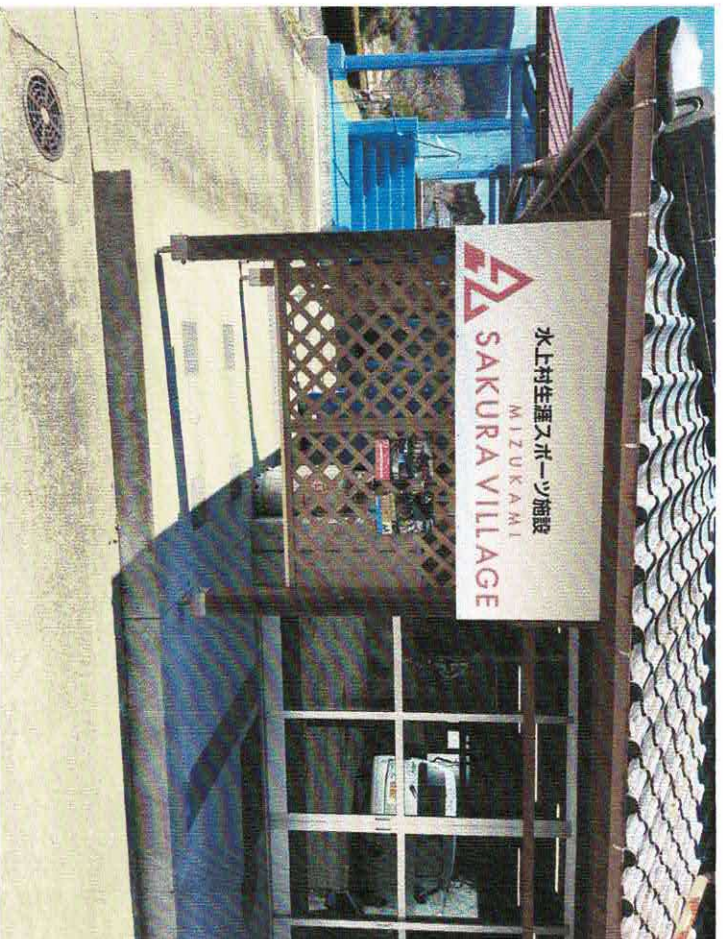
(2)人吉市では、水害から復興した酒造元の復興過程を学ぶとともに、防災のあり方その後のまちづくりの進め方について、酒造元の社長からレクチャーを受けました。その中で心に残ったのは50数年前の水害の際、床下浸水だったことで高齢の方が避難をせず、お亡くなりになったお話を伺いました。このように特に高齢者の方は過去の経験により判断をされ、被災されると言うこと

がどの災害においても多いのではないかと感じます。そのためには正常性バイアスと多数派同調バイアスなどの住民の防災心理を踏まえて避難計画を策定しなければならなし、命を守る防災・減災対策が重要になると感じました。

宿泊したホテルの令和2年7月豪雨被災状況



(3)水上村ではTrain Run等の整備状況や全国から集まる陸上チームの合宿を誘致するにあたり行政側の取り組みについて研修を行いました。





水上村ではスポーツ事業を通して地域活性化！水上村まち・ひと・しごと創生総合戦略「水上プロジェクト」を立ち上げており、特筆するべきは水上村をリゾートとして捉えた戦略を立てていることです。主な産業は農業・林業・観光業ですが、何といても水上村スカイビレッジの取り組みです。スカイビレッジとは、アスリートにより充実したトレーニング環境を提

供し、陸上競技場・ラグビー・サッカー場の人工芝導入や上の写真2枚を見ればわかるようにトレーニングセンター増設・宿泊施設の充実に取り組んでおり、これにより利用者や合宿による村内宿泊者のさらなる獲得を図り、その経済効果を村内で循環させる仕組みを整備しており、新たな経済トレン드의確立を目指していることです。そのことがさらに水上村のブランド価値を上げ、関係人口の創出・増加を図るとともに、農業や観光業を始めとした他の産業にも新しい経済効果を生み出しています。そのことが水上村経済全体の活性化につながっており、またジビエなど特色のあるふるさと納税が年間14億円ほどあり、その資金でさらなる活性化策に取り組むと言う好循環を生んでいます。



また子育て支援にも力を入れており副村長おかないことで、その予算を学校給食無償化やこども医療18歳まで無償化などに当て徹底した少子化対策により人口減少に歯止めをかけ、人口2000人を維持しています。本町として考えなければいけないのは、何もなくても人口が増加する大津町とは、本気度が違うと言う感覚があります。話を聞く限り町長から職員・村民が村の存続のために必死で頑張っている姿が見えてきます。またこのような大規模プロジェクト

にも関わらず指定管理者制度を導入しておらず、数名の職員ですべての業務をこなしプロジェクトを軌道に乗せていることです。

本町では指定管理者制度を導入することになりましたが、今後メリット・デメリットを注視していく必要があると思います。これから大津町でもロアツシ熊本のホームタウンに名乗りを上げるなど大型プロジェクトを立ち上げ50年後100年後でも人口が増え続けるような魅力的な街にしていく必要があるのではないかと強く感じました。以上で今回の研修の総括とさせていただきます。